

第3回アサリ国際シンポジウム
(World Aquaculture 2015 サテライトシンポジウム)

日 時： 平成27年6月1日
場 所： 三重県 津市アストプラザ アストホール
(〒514-0009 三重県津市羽所町700 アスト津4階 TEL: 059-222-2525)

共 催：水産総合研究センター、三重大学大学院生物資源学研究科、三重県

開催趣旨

アサリ漁業や養殖に関する国際的な意見交換の場を設けることを目的として、2008年に第1回アサリ国際シンポジウムが横浜市で開催され、2012年に韓国釜山市で第2回が開催された。今回、World Aquaculture 2015が韓国済州市で開催されるのを機に、World Aquaculture 2015のサテライトシンポジウムとして第3回アサリ国際シンポジウムを三重県津市で開催する。

世界におけるアサリ生産の状況を俯瞰すると、かつて世界一の生産量を誇った日本はその生産をピーク時の6分の1以下にまで大きく減じ、代わって中国が大きく生産を増加させ400万トン近くに至っている。韓国は生産量のピーク時よりも減じたものの2~4万トンで推移している。本来アサリの生息域でなかった欧米において、日本から移入され養殖されたアサリは各地に広がり、特にイタリアでは日本や韓国を上回る生産が見られ、アメリカ、カナダ、フランス、スペインなどでも一定の生産が維持されている。このように、ダイナミックに変動するアサリ生産量変化は、どのような要因によって説明されるのか、各国の事例を比較することにより、生産の阻害要因と促進要因の抽出を図る。さらに、アサリ生産回復に向けて必要な方策や調査研究のあり方を議論したい。

プログラム

6月1日(月)：シンポジウム

(会場：津市アストプラザ・アストホール、ギャラリー1)

9:45～10:00：開会挨拶

(水研センター・三重大学・三重県)

10:00～10:10：趣旨説明

(事務局)

10:10～12:00：セッションⅠ（アジアのアサリ資源と課題、各35分）

○鳥羽光晴（元千葉県水産総合研究センター東京湾漁業研究所）

○Choi, Kwang-Sik（韓国 済州大）

○Fang Jian-guang（中国 黄海水産研究所）

12:00～14:00：昼食とポスターセッション（ギャラリー1、30～40題）

14:00～15:45：セッションⅡ（欧米のアサリ資源と課題、各35分）

○Xavier de Montaudouin（フランス ボルドー大）

○Marco Bartoli（イタリア パルマ大）

○Brian Kingzett（カナダ バンクーバー島大）

15:45～16:00：休憩

16:00～17:10：セッションⅢ（アサリの多様性と生息場復活の試みについて、各35分）

○Stefania Chiesa（ポルトガル アヴェイロ大）

○桑原久実（水産総合研究センター研究推進部）

17:10～18:00：総合討論

19:00～21:00：交歓会（アスト津バイキングレストランルベール）

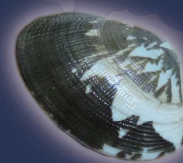
第3回

アサリ国際シンポジウム

-International Collaboration for Manila clam (Asari) Studies-

2015年6月1日(月) 2日(火)

場所 三重県津市アスト津 4F アストホール



6月1日(月) シンポジウム 9:45 - 18:00 ※発表は英語です
アジアのアサリ資源と課題、欧米のアサリ資源と課題、
アサリの多様性と漁場の復活について

6月2日(火) 現地検討会(松阪市・鳥羽市)
松名瀬海岸(アサリ漁場)、小白浜海岸(採苗場)、
浦村アサリ研究会養殖場、海の博物館ほか

参加
無料

人数限定 先着順
入館・昼食費 約4,500円



近鉄・JR「津駅」下車、東改札口を左へ出て徒歩1分

▼参加申し込み、詳細はホームページから！

http://cse.fra.affrc.go.jp/swat/asari_symp_2015/default_jpn.html

お問い合わせ

水産総合研究センター 増養殖研究所 渡部諭史

TEL.0599-66-1830, FAX.0599-66-1962, E-mail: swat@affrc.go.jp